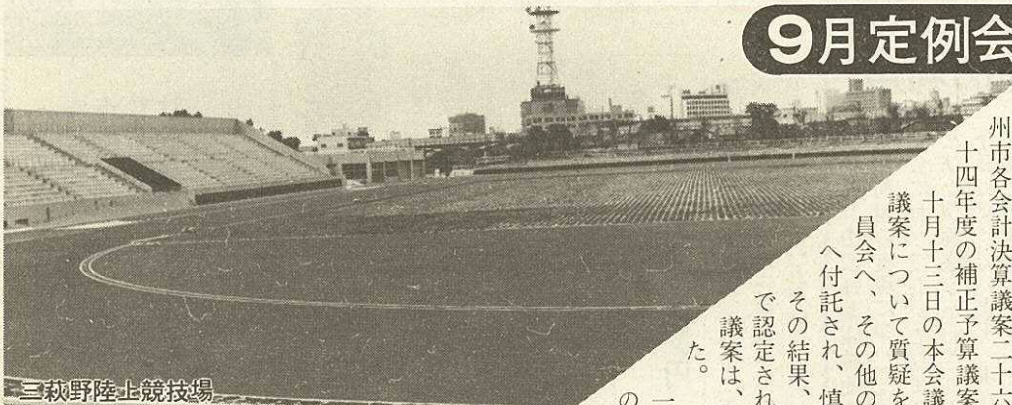


9月定例会



三秋野陸北競技場



新門司温水プール



総合療育センター

53年度各会計決算を認定 補正予算は37億円を追加

昭和五十四年九月北九州市議会定例会は、九月二十九日から三十一日間の会期で開かれ、十月二十九日に終わりました。

今議会における市長提出議案の主なものは、五十三年度北九州市各会計決算議案二十六件、条例の一部改正議案八件、五十四年度の補正予算議案三件などでした。

十月十三日の本会議において、三人の議員が市長提出議案について質疑を行った後、決算議案は決算特別委員会へ、その他の議案はそれぞれ所管の常任委員会へ付託され、慎重かつ熱心に審査されました。

その結果、決算議案は十月二十五日の本会議で認定され、また、補正予算、条例改正等の議案は、二十九日の本会議で可決されました。

一方、議員提出議案は、七件で、そのうち六件が可決され、一件が否決されました。

決まった主なもの

- ◎市長提出議案
 - ◎昭和五十四年度北九州市補正予算
 - 道路、河川、福祉施設、学校等の整備や、災害復旧事業に充てるために増額補正をするもの
補正額 三十七億三、三六二万円
 - 一般会計 三十七億二、七四〇万円
 - 普通特別会計 一、六二二万円
 - 土地の取得
仮称第二長行小学校用地として買入れるもの
 - ◎北九州大学条例の一部改正
授業料、入学金、聴講料を国立大学並みに段階的に引き上げるもの

昭和53年度 北九州市決算状況

区分	一般会計		企業会計 (下水道など4会計)	
	普通	特別会計 (国保など21会計)	収入	支出
歳入(A)	2,679億5,092万円	1,905億8,027万円	414億1,076万円	449億3,450万円
歳出(B)	2,636億3,590万円	1,868億3,009万円	差引収入支 (A)-(B)=(C)	△35億2,374万円
形式収支 (A)-B=C	43億1,502万円	37億5,018万円	繰り越すべ き財源(D)	19億8,884万円
繰り越すべ き財源(D)	5億7,202万円	867万円	実質収支 (C)-(D)	△15億3,490万円
実質収支 (C)-(D)	37億4,300万円	37億4,151万円		

◎都市モノレール小倉線の関連工事の請負契約締結
工事件数 三件
総契約金額十億八、三〇〇万円

議員提出議案

- ◎電気災害防止に関する意見書
- ◎公共料金の値上げの抑制と国民生活の安定に関する意見書
- ◎鉱害復旧事業の促進並びに石炭関係法の期限延長に関する意見書
- ◎北方領土のソ連軍事基地の即時撤去を求める意見書
- ◎一般消費税の導入及び所得税の増税反対に関する意見書



質疑 応答

十月十三日から四日間、本会議で十二人の議員が、市長から提出された議案に対する質疑や、市政一般に対する質問を行いました。その中から主なものを取り上げました。

決算の内容をめぐって

不用額は五五億円

議員 五十三年度決算で五十五億円の不用額が出ていますが、事業は適正に執行されたのですか。

市長 五十三年度の予算執行にあたり、公共事業を推進するために、公共事業等推進本部を設けて、早期契約、早期着工を目標にしました。その結果、全会計での事業契約率は九十七・一パーセントとなり、契約率ではほぼ満足できる成果をあげています。このように精一杯予算の完全消化に努めた結果としてこれだけの不用額が出たものです。

事業の繰越し

議員 このほかに、五十四年度へ繰り越したものが、二十七億円あります。この中には学校や保育所などの建設費が入っていますが、これは市民要望に依っていないことになりませんか。

市長 事業を行うにあたり、用地の取得がますます困難になっていること、建設にあたって地元住民との協議に日時を要したことな

どにより、やむなく事業の執行が遅れ、繰越しを生じたわけですが、事業は遅れましたが、最終的には実現するわけですから、市民要望に依っていないということにはならないと思います。

多過ぎないか

市債二、九四三億円

議員 市債の現在高は五十三年度末で二千九百四十三億六千六百八十四万円で、この五年間に約二、

平和利用の実現については、議会においても、これまでたびたび論議がかわされ、今日に至っています。現在の三分割案に沿って、市が進めている部分使用の計画は、自衛隊の弾薬庫再開にも道を開くのではないかと考えますが、市長の見解をおたずねします。

市長 弾薬庫跡地を国の三分割案に基づいて、自衛隊が三分の一を使用することには、必ずしも反対しま

山田弾薬庫跡地の利用

六倍にも増えています。このままで行きますと今後四、五年の間に北九州市の全会計の年間予算に匹敵する額になりかねません。

市債をむやみに増やさないと財政運営をすべきではありませんか。

市長 市の財政規模は年々大きくなっています。それに伴い市債の現在高も増加しています。公債費比率は五十三年度の決算では八、五パーセントで、危険水位の二十パーセントにはほど遠いものです。現在の国、地方財政の現状からすれば、これからは市債の発行が押えられ、一方で社会資本の整備のテンポも遅くなるのではないかと思いますので、いままでのようなスピードで市債の発行が増えるようなことはないと思います。

警戒心をもって臨みたいと考えています。問題は、その使用のしかたにあります。市民の安全を守るという立場から、弾薬庫としての使用には反対をするということですが、市としては、去る六月市議会の議決の趣旨をふまえ、跡地の利用計画を作り、北九州財務局に提出しようと考えています。その際、市民の要望を背景とした利用計画を盾に、弾薬庫としての使用に反対していくという考え方で

入居方法の改善を

市営住宅

議員 現在、市営住宅の空家入居者の公募は、年一回行われていますが、抽せんにはずれると一年間待たなければなりません。空家を効率的に使用するためにも、公募を年二回にしてはどうですか。

また、火災等により家を失った被災者に対しては、市営住宅に無抽せんで緊急入居という措置がとられていますが、現実には、入居資格要件に合わないため、入居出来ない場合が少なくありません。被災者に限って、資格要件を取り除き、入居させることはできないのか、あわせて伺います。

建築局長 空家入居者の公募は年一回、六月に行っています。その他に、建設が完了した新築住宅については、年一回ないし二回、母子世帯や老人世帯などの特定の住宅は、年一回公募を行っておりますので、空家住宅の公募は、現行どおり年一回ということを進めて行きたいと考えています。

また、市営住宅の入居については、公営住宅法により、入居資格要件が定められており、災害被災者に対しても適用され、収入基準を超える場合とか、単身者の場合等は入居することができません。しかし、国において、入居資格要件の緩和を検討中というので、解決の方向に進むのではないかと思っています。

駅まで「動く歩道」

モノレール

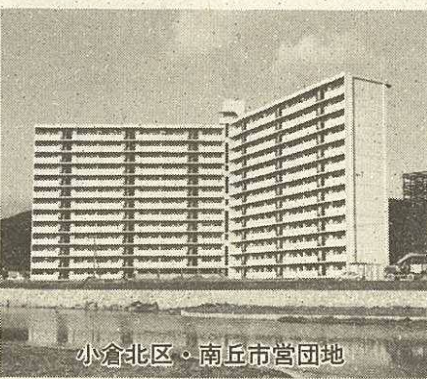
議員 モノレール小倉線の小倉停留所の位置を当初計画の小倉駅前から約二百メートルずらして建設する計画変更案が発表されましたが、その理由をおたずねします。

市長 変更の理由としては、第一に、小倉駅南口広場の都市空間を確保することにより、駅前の美観と環境の保全を図ることができると見られます。第二には、モノレール利用客の商業地域への利用度が高まっています。第三には、将来の東西線（小倉駅前と黒崎駅前を結ぶ交通機関）との連絡の関係があります。

また、国鉄利用客については、小倉駅まで地下道をつくり、動く歩道でつなぐ計画です。

議員 変更案に対する駅前周辺の住民との話し合いは、どのようになっていますか。

市長 地元住民とは、今年の七月から話し合いを続けています。なぜ今ごろ計画を変えたのかという意見もありますが、だんだんと理解を深めていただいていると考えています。



小倉北区・南丘市営団地

白島石油備蓄計画

議員 新聞報道によれば、石油公団は、白島周辺十数か所のボーリング調査を行うため、近く工事を開始する運びになったようです。この海上石油備蓄計画は今後どのように進められていくのですか。

市長 本年三月に、石油公団から、白島での基地建設の可能性を調査した結果が、中間報告として発表されました。

更に、海底の地質等の調査の必要性から、このたび地元漁協の了承を得て、ボーリング調査に入るものです。

この調査結果は、来年三月を目途にまとめられる予定ですから、白島に石油基地を設けるかどうかの結論はその後になります。正式に決定されれば、早ければ五十七年度、遅くとも六十年年度までに完成をみると思います。

資源問題に活発な論議

議員 正式に決定されれば、漁業振興策や、地元関係者との調整問題がたくさんあると思います。

市長は、一日も早く完成するよう、側面的な協力を積極的にすべきだと思いますが、所信をおたずねします。

市長 よい調査結果が出れば、環境アセスメント等もする必要がありま。また、白島の周辺海域は好漁場であり、漁業振興策を講じていかなければなりません。同時に、航路の安全性の確保も

大切なことです。

これらの問題についても、漁業関係者の意見を十分に聞きながら建設を促進したいと考えています。

資源再利用化を進めよう

議員 さきに開催された、「リサイクルリング(資源再利用)フェア」の成果と今後の計画をおたずねします。

こうした企画を続けていくために、現在、市内の子供会や婦人会などが行っている古紙、空ビンなどの回収運動に対し、市が助成をする制度を設けたり、廃品回収センターを設置してはいかがですか。



好評のリサイクルフェア

市長 リサイクルリングフェアは、ごみを減量化し、廃棄物の再利用を図るという意識を市民に高めてもらい、廃棄物に対する認識を改めていただくことを目的として開催しました。

入場者も非常に多く、展示品の引取り状況もよかったことから、

市民の清掃事業に対する関心が高まったと喜んでいきます。今回の催しが大変な好評を得ましたので、今後は、毎年度の行事として続けていく考えです。

また、回収運動の進め方や廃品回収センターの設置などについては、回収業者あるいは回収実施団体、学識経験者、一般市民の代表などで組織する協議会を設置し、具体的に検討していただく考えです。

石油製品の安定確保を

議員 最近の石油製品の値上がりや品不足は、市民生活に密着した重大な問題ですが、市としての対策をおたずねします。

市長 本年四月から物価モニター制度を設け、石油製品など毎月の価格動向のは握に努めています。特に、灯油、ガソリンなどの確保については、福岡通商産業局、石油元売り十三社、県の石油商業組合にその確保を要望しています。

これからも関連機関と情報交換を密にして十分に監視していきたいと思います。

ほぼ40%の雇用実績

議員 五十三年度は雇用問題が大きな社会問題となりました。市には雇用問題連絡委員会、市議会でも雇用対策等特別委員会が設置され、行政と議会が一体となってその対策に取り組んだ結果、幾つかの措置がとられました。

五十三年度中途から実施された公共事業による無技能者の四十パーセント雇用の結果と、市内官公

庁から地元企業育成のために発注された実績及び市長が市内各企業へ要望された雇用維持の成果はどのように集約されていますか。

市長 公共事業による無技能者の雇用実績は八万三千七百三十三人で目標に近い達成率となっております。

市内の官公庁の事業についても地元企業への発注を増大してもらいたいとの要望をしましたが、この要望にそうよう努力すると回答があつていきます。

雇用維持については、昨年六月に市内の資本金一億円以上の企業六十四社に対し、雇用調整を行うことは、極力避けてもらいたいと要望を行い、各企業から、趣旨にそつて努力すると回答があつていきます。五十四年度もこの方針を継続していきます。

具体化を急げ

—折尾再開発—

議員 黒崎駅東地区再開発事業は、基本計画が作成されて以来約六年の歳月を要しましたが、折尾駅前再開発事業は、完成まであと何年を要するのでしょうか。具体的な年次計画をおたずねします。

市長 折尾駅前の再開発事業は、昨年の十二月に駅前の〇・八ヘクタールの区域を対象とした都市計画決定が行われました。また、今年中には、市議会に再開発事業の施行規程を提出し、この規程が議決されましたら、再開発ビル計画の決定、権利交換計画の決定、再開発ビルの建設、河川改修工事、街路工事等を順次行っていききたい

と思つていきます。そして、再開発ビルは、五十七年度には完成させたいと考えています。

区役所の建てかえ

議員 若松区役所は大正十一年に建設されて、すでに五十七年に なります。

今では雨もりがし、建物自体にもきれつが生じている状態です。市長は過去の議会において、建てかえを行う計画を発表しましたが、その後の経過をおたずねします。

また、門司区役所についても一時的な改修が行われていますが、この建設計画についておたずねします。

市長 若松には市民会館、文化会館というような機能をもつ施設がなく、体育館の一部をそれにあてているという状態です。

市の構想としては、国鉄の若松駅構内の遊休地の払下げを受け、その土地に独立の市民会館を建てるということで現在交渉中です。その建設が完成した段階で、区役所あるいは体育館の姿というものを再検討して、将来の区役所の計画をたてるほうが適当であると考えています。

また、門司区役所については、門司市、門司港の全盛時代に建設された建物で文化的価値をもつていていると思つていますので、これを建てかえることは考えていません。しかし、区民サービスに欠ける点や手せまになった点等は補足的な措置で整備していきたいと思つていきます。

決算特別委員会の審査から

十月十七日に設置された決算特別委員会は、三つの分科会に分かれ、六日間にわたって開かれました。

この委員会では、五十三年度予算は適正に執行されたか、行政効果は十分であったかなどを審査するため、当局との間に、活発な質疑応答が行われました。

以下、その中から主な質疑を取り上げました。

精神障害者にも福祉対策を

福祉対策を

委員 現在、小倉北区に建設中(十一月開館)の障害者福祉会館は、精神障害者には利用をさせないようですが、市内には、精神障害者の社会復帰のための福祉施設がありません。また、これまで精神障害者対策は、衛生の分野の問題としてとらえられており、民生の分野での福祉対策は行われていません。

そこで、今後は民生サイドの問題として、精神障害者に対する福祉行政を進めるとともに、新・新中期計画においても是非取り組むべきだと考えるが、当局の見解をおたずねします。

当局 障害者福祉会館は身体障害者と精神薄弱者を対象とした施設です。精神障害者の社会復帰施設については、新中期計画の中で建設を計画していましたが、小倉北区浅野に、本年度中に、通所訓練施設を着工する見通しです。

また、今後の精神障害者の福祉対策は、精神薄弱者に対して行っている対策の中から、適用できるものを取り出していき、新・新中



決算特別委員会の審査風景

国立大学の水準に段階的に合わせていくものです。

来年度予算については、現在大学の管理機関からの要望をとりまとめているところでありますが、これまでも、かなりの設備投資を毎年継続的に行っています。

これらの経費は、そのほとんどが一般会計からの繰入れ金でまかなわれており、今回の値上げによる増収額をはるかに上まわる金額です。

今後引き続き大学の教育条件の整備充実を図っていきたくと考えています。

収入のチエックを

市営住宅

委員 市営住宅は、本来、住宅に困窮している低所得者を入居させるためのものであるが、現在、入居資格要件にある収入基準を超過しているながら入居しているケースがかなり見受けられます。

これに対する措置はどのようにしていきますか。

当局 入居者に対する収入調査は毎年行っていますが、収入超過者は、法の上で、明け渡し義務のあるものと、明け渡し努力をする義務のあるものとにわかれます。

いづれも、公団住宅などの代替住宅のあつせんを行うなどして、当事者との協議を進め、積極的に明け渡しの促進を図っていますが、個別には諸々の事情があり、困難な面もあります。

更に、対策を考えて取り組んでいきたいと思えます。

八幡病院は

ベッドを増やせ

委員 昨年十月、市立八幡病院は、新たに救命救急センターを併設し、総ベッド数二百四十六床となつて全面改築のうえ開業されました。

同病院は、総合病院として多くの診療科目を設けていることもあって、訪れる患者が多く、入院を必要とする患者も少なくないようです。

また、救命救急センターで受け入れる救急患者も後を絶たない状況のようですが、現在のベッド数を増やす考えはありませんか。

当局 八幡病院の増築増床については、現在検討しているところです。

考え方としては、医師を確保しやすくするため、医師の臨床研修病院としての指定条件である四百

床以上を目途に増床する方針です。

しかし、増床することについては、関係機関との協議も必要であり、今すぐというわけにはいきません。

来年度からスタートする新・新中期計画に、増築増床計画を盛り込み、計画期間中(五十九年度まで)には着手したいと考えています。

菖蒲谷の公園計画

委員 若松区の菖蒲谷公園計画には、周囲の自然環境をいかした計画が必要であると思えますが、どのような計画になるのですか。

当局 菖蒲谷公園は、水道局の用地を利用して本年度から整備を行うために、現在、事業計画を進めています。事業計画には、玄海遊歩道や高塔山公園との関連、また、藤木方面からの利用を考えた遊歩道の建設等を考えています。

人事紹介

九月定例会で、次の方々が決まりました。(敬称略)

北九州市八幡西区農業委員会委員

渡辺 俊雄

人権擁護委員候補者

脇山ヨシノ

北九州市固定資産評価審査委員会委員

森 弘二

門司区選挙管理委員会委員

浦野 重一・神田 亀夫

岩田 熊一・一宮 豊

若松区選挙管理委員会委員

柴田 義隆・松田 伍郎

吉住 長雄・富重 芳子

戸畑区選挙管理委員会委員

宗雪 博芳・田村 静子

加来 義昭・下河邊建五